

1 縄文・弥生時代の遺跡

(1) 沿岸部

松永湾東側の柳津町では、縄文時代の遺跡である馬取遺跡（馬取西貝塚と馬取東貝塚）が発見されています。この遺跡は、県の史跡に指定されています。

現在は、保存施設を作り馬取東貝塚の一部のみが保存されています。

また、沼隈半島の東岸や福山市の東部の沿岸部でも貝塚が発見されています。このような遺跡から、石器や貝類、猪や鹿などの獣骨類などが出ていて、当時の人々の生活の様子が分かります。



〔馬取遺跡〕

貝塚（古代の人たちのゴミ捨て場）から、様々なことが見えてくるね。



ばらのまち福山
イメージキャラクター
「ローラ」

(2) 芦田川流域

神辺平野のやや北寄りの小高い丘（高さ37.5m）では、弥生時代前期の遺跡である亀山弥生式遺跡が発見されています。この遺跡は、県の史跡に指定されています。

この遺跡では、弥生時代の中頃までの三重の環濠（むらの周囲に造られた堀）が見つっています。

また、土器のほか多量の石のやりや刃器（ナイフ形の石器）、磨製の石斧および石包丁など各種の石器が見つかり、備後地方の集落での農耕生活を示す遺跡です。



〔亀山弥生式遺跡〕

当時の人々は、集落を作る場所を選ぶとき、どんなことを考えたんだろう。



2 古墳時代の遺跡

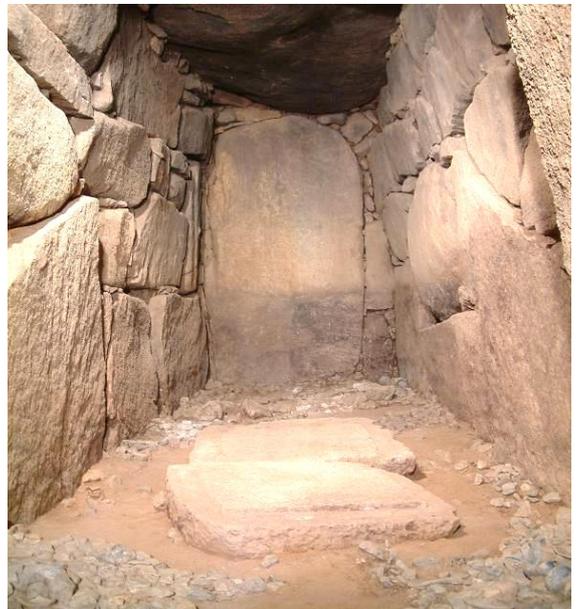
(1) 二子塚古墳

駅家町中島・新山^{にいやま}では、6世紀末から7世紀初め頃に造られた二子塚古墳(長さ73m)が発見されています。この古墳は、前方後円墳で前方部と後円部のそれぞれに大型の横穴式石室^{よこあなしき}が造られています。特に、後円部の石室からは、多くの須恵器^{すえき}や土師器^{はじき}と呼ばれる土器や馬具、武器^{はっくつ}が発掘されました。その中でも刀の柄の飾りとなる「双龍環頭柄頭^{そうりゅうかんとうつかがしら}」は国内では他に種類のないデザインのものとして注目されています。

そのため、二子塚古墳は古墳時代の日本の歴史を明らかにする上でとても重要な古墳として、2009年(平成21年)国史跡に指定されました。



〔後円部の石室入口〕



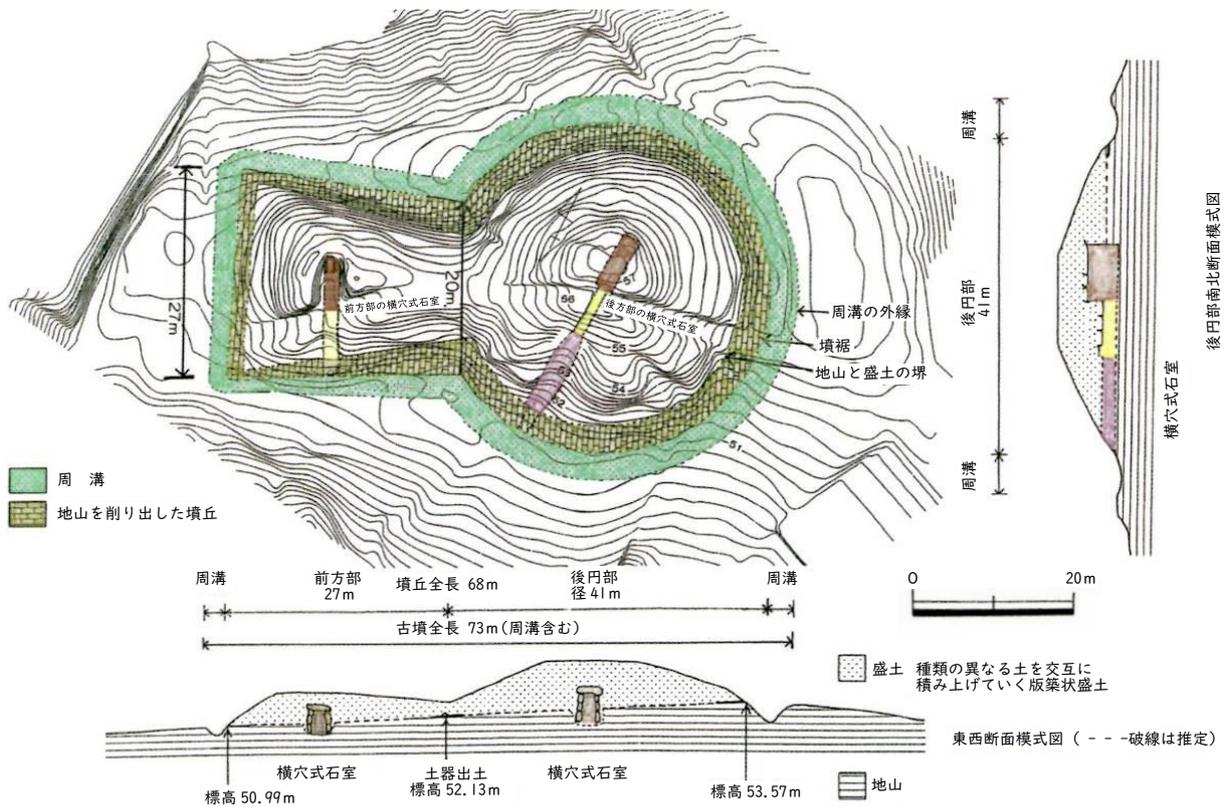
〔後円部の石室内部〕



〔双龍環頭柄頭〕



〔古墳からの出土品〕



〔二子塚古墳図面〕

二子塚古墳がある服部川流域には、^{たからづか}宝塚古墳、^{おおさこ}山の神古墳、大迫古墳などの大きな横穴式石室のある古墳がたくさんあります。

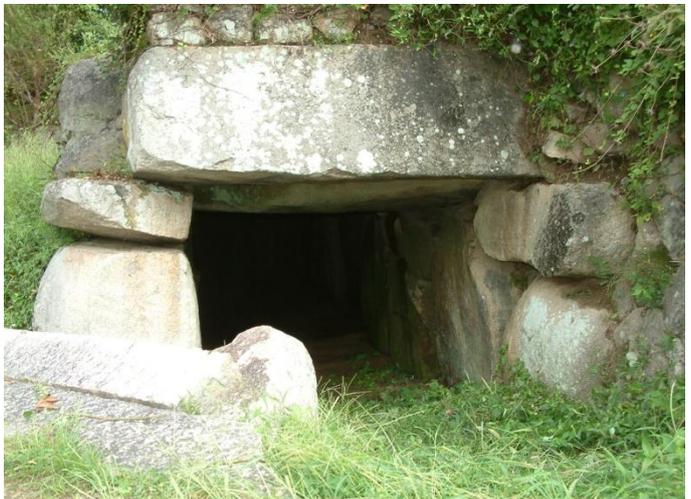
この地域には、これらの古墳を紹介した説明板や案内板が『福山古墳ロード』として作られているよ。



環境イメージキャラクター くわいちゃん

(2) 大迫古墳

7世紀前半に造られた、服部大池近くの大迫古墳は、貴重な金で作られた耳飾りが発見されており、大迫^{きんかんづか}金環塚とも呼ばれ、県の史跡に指定されています。古墳の横から出入りすることができる特徴的な横穴式石室で、県内でも巨大な石室です。



〔大迫古墳〕

(3) 潮崎山古墳

新市町相方の芦田川の近くでは、古墳時代前期の前方後円墳（長さ約30m）が発見されています。

この古墳から出たものは、魏の皇帝が邪馬台国の女王卑弥呼に与えたと考えられる大型の青銅鏡の三角縁五神四獣鏡のうちの一枚と鉄斧が見つかりました。



〔三角縁五神四獣鏡〕



〔短冊形鉄斧〕



福山には、他にも特徴のある古墳がたくさんあるよ。



卑弥呼に与えられた銅鏡が出土したなんてすごいね。

〔特徴のある古墳〕

石鎚山古墳群

加茂町加茂が丘の北西に延びた低い丘の先端では、4世紀後半に造られたと考えられる古墳が発見されています。この古墳は、円墳で、県の史跡に指定されています。

第1号古墳は、古墳の下部と中腹斜面に石を並べ2基の竪穴式石室があり、銅鏡、玉類、鉄剣などが見つっています。また、4世紀から5世紀初めに造られたと考えられる第2号古墳からは、銅鏡片、刀子（小刀）などが見つっています。



〔石鎚山第1号古墳〕

曾根田白塚古墳

芦田町下有地久田谷の北側の小高い丘の頂上付近では、古墳時代末期に造られた古墳が発見されています。この古墳は、丸形の円墳（直径約9m）で県の史跡に指定されています。古墳の内部の天井の石、横側の石は、組合せのための加工がされ、すき間には漆喰が残っているのが特徴です。

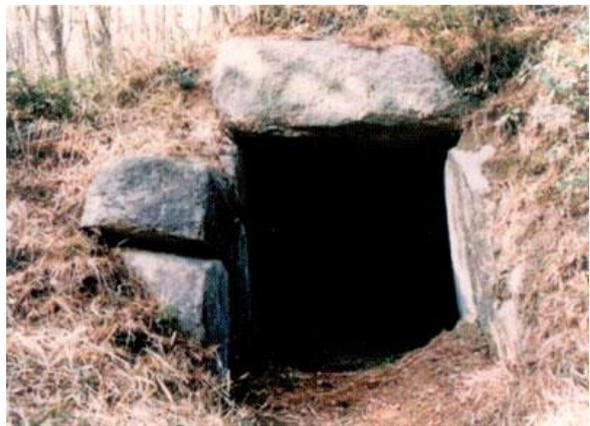


〔曾根田白塚古墳〕

大佐山白塚古墳

新市町戸手にある大佐山（高さ188m）の山頂より少し南に下がった所では、7世紀中頃に造られたと考えられる古墳が発見されています。

この古墳は四角形の方墳（一辺12m）と考えられており、県の史跡に指定されています。古墳の内部には、大きな花崗岩を積み上げた横穴式石室があります。



〔大佐山白塚古墳〕

松本古墳

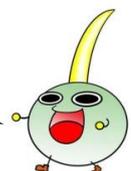
神村町松本にある緩やかな丘（高さ20m）は、5世紀前半の二段造りの帆立貝式古墳（直径45m、高さ6.5m）で、珍しい帆立貝の形をしており、県の史跡に指定されています。

古墳の外からは、葺石（墳丘を覆う石）とともに埴輪が見つかり、周りには堀と思われる跡も残っています。



〔松本古墳〕

みなさんの学校の近くにも古墳があるかもしれないね。



歴史・伝統文化

あすか あづちももやま
飛鳥～安土桃山時代

平安時代には、備後国は「きびのみちのしりのくに」と読んでいたそうだよ。



1 備後国

備後国は、7世紀の終わり頃に吉備国が三つに分割され、その西の端に位置する国とされたようです。

国の役所である国府の場所は、平安時代の書物に葦田郡にあると書かれており、現在の府中市元町付近と考えられていますが確かではありません。

備後国の国分寺は、現在の福山市神辺町下御領に位置していたとされています。江戸時代に土石流で流され、壊れてなくなりましたが、再建されています。(現 唐尾山医王院国分寺) また、国分尼寺は、現在の福山市神辺町西中条の小山池廃寺と考えられていますが確かではありません。



〔現 唐尾山医王院国分寺〕

ふるさと豆知識

吉備津神社

備後国の代表的な神社に、新市町の吉備津神社があります。この神社は、平安時代に備中国の吉備津神社（岡山県岡山市）から分けられたと伝えられていますが、実際には12世紀ごろに建てられたものとみられ、一宮と称されるのは中世以降のことです。

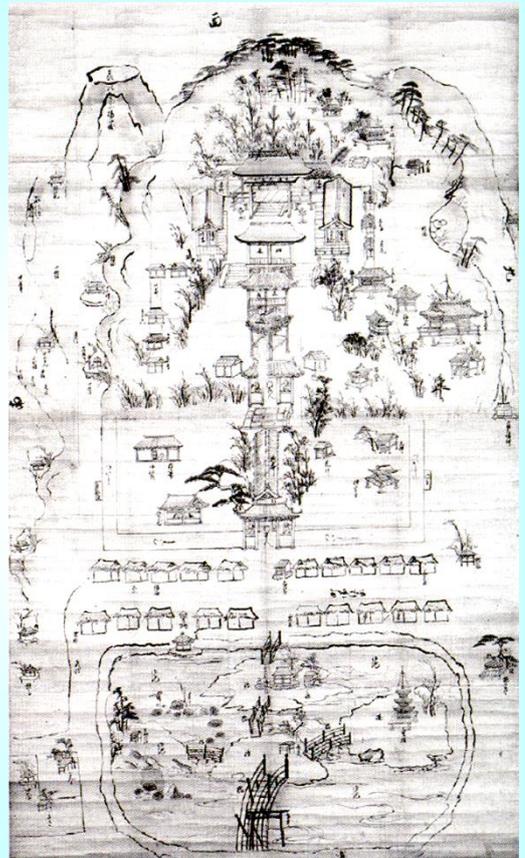
吉備津彦命を神様として祀り、地域では一宮(いっきゅう)さんと呼び親しまれています。

鎌倉時代の「一遍上人絵伝」(遊行寺蔵・国宝)に詳しく描かれています。社殿の配置は古絵図にも描かれているように、ほぼ昔のままです。

本殿は、国の重要文化財に指定されています。

〔吉備津神社 古絵図〕

(室町時代の頃の様子を江戸時代初めに描いたものと言われています。)



2 陸の道、海の道

(1) 古代山陽道

奈良時代から平安時代中頃まで、都と大陸との交易の根拠地にあたる九州大宰府を結ぶ道が整備されていました。

この道は、古代山陽道と呼ばれ、30里（現在の約16km当時の1里は約534m）ごとに駅家という施設を設置し、大陸からの外交使節などの通行を助けました。

古代山陽道は、特に重要であったため、他の道の駅家より多い20頭の馬が配置され、瓦葺きと白壁の立派な駅家が作られました。

この道の一部が福山市の北部を横切っており、安那駅（神辺町湯野）、品治駅（駅家町中島）の2駅があったと考えられています。



駅家とは、古代日本の街道沿いに整備された施設で、使節や役人が移動する際の馬を飼育する厩舎や水飲み場、宿泊や休憩の部屋、調理場や倉庫などが設置されていたようだ。



(2) 古代山陽道の推定ルート

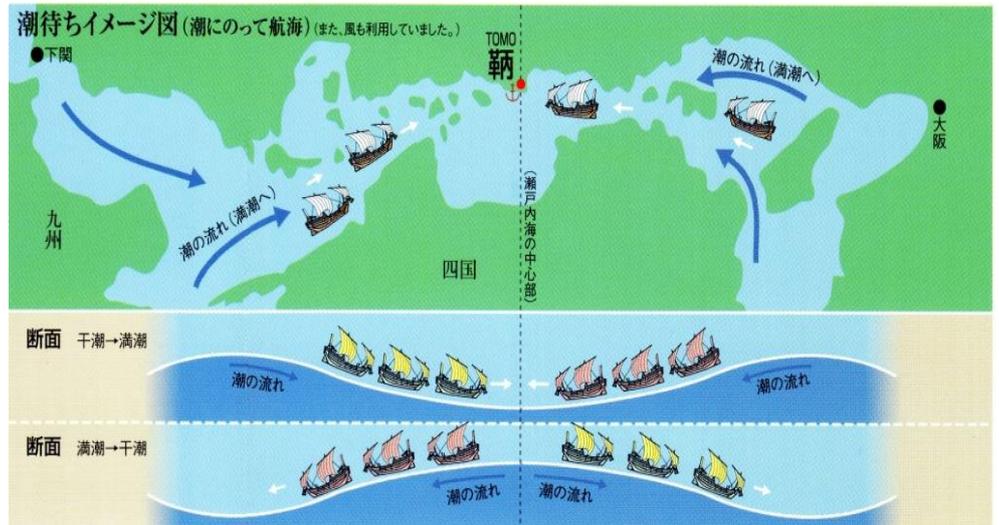
古代山陽道は、岡山県井原市高屋町から国道313号線に沿い、神辺町につながっています。神辺は備後地方最東端の駅家で、国境の駅家としてずいぶん栄えました。

神辺からは、駅家、新市、府中、御調、尾道へと古代山陽道は続いていました。瀬戸内海沿いを通るのではなく、海より離れた内陸部を通過していました。



(3) 鞆の津

京都や大阪と北九州をつなぎ、大宰府等へ往来する官使、遣唐使などが航行していた瀬戸内海は、天然の運河として政治・経済・文化の交流に重要な役割を持っていました。



風向きや潮の干満を利用していた頃の航海では、鞆の津は潮の満ち引きを待つ船の「潮待ちの港」としてにぎわいました。

ふるさと豆知識

万葉集に詠まれた鞆

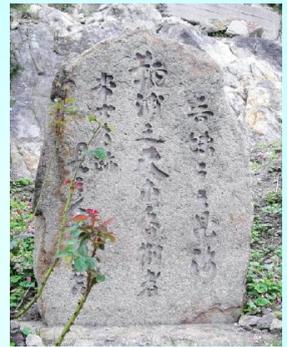
『万葉集』には、鞆を詠んだ歌が全部で8首あるそうだよ。



「吾妹子が見し鞆の浦のむろの木は
常世にあれど見し人ぞなき」

<意味> (大宰府へ向かうとき) 妻が見た鞆の浦のむろの木は、いつまでもこの世にあるけれど、いっしょに見た妻は、今はもうこの世にいない。

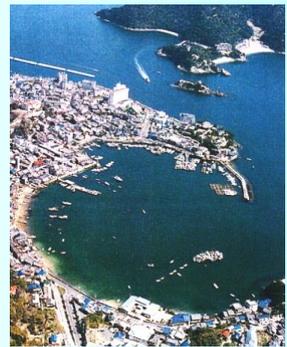
* この歌は730年(天平2年)、大伴旅人が大宰府の役人の任期を終え、都へ帰る際に鞆の浦に立ち寄った時に詠んだ歌です。大宰府で最愛の妻を失い、一人になった寂しい気持ちが伝わってきます。



「ま幸くて またかへり見ん 大夫の
手に巻き持てる 鞆の浦廻を」

<意味> 幸い無事であったなら、また帰りに見よう。立派な男子が手に巻き持つ(鞆という名の武具と同じ名前の)鞆の浦を。

* 湾の形が、矢を放つ際に、弦が左腕に当たるのを防ぐための「鞆」という武具にそっくりであることから、「鞆の浦」と呼ばれるようになったという説がある。



「海人小舟 帆かも張れると 見るまでに
鞆の浦廻に 波立てり見ゆ」

<意味> 漁師の小舟が、あちこちで帆を張っているのかと見間違ふほどに、鞆の浦全体に波が立っているのが見える。



3 明王院と草戸千軒

(1) 明王院の歴史

明王院は福山市草戸町にあり、「常福寺」と呼ばれていました。お寺に残された文書によると、807年(大同2年)に空海(弘法大師)が建てたと言われています。

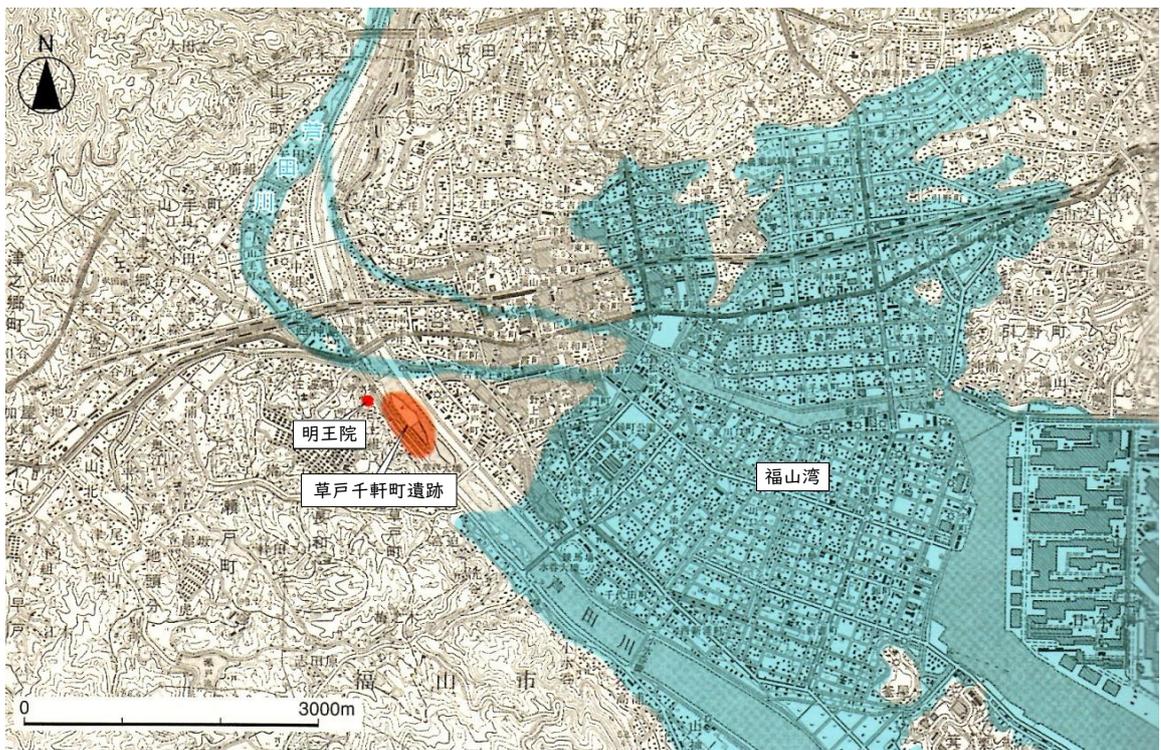
明王院の仏像は、今から1000年以上前の平安時代の初めに作られたもので、お寺もそのころ建てられたのではないかと推測されています。

お寺の中には、本堂・五重塔のほかに、庫裏・山門・書院・護摩堂・鐘楼などの建物や多くの石塔があります。本堂と五重塔は国宝に指定されており、建物の内側の輪垂木を用いたアーチ型の天井は、この当時には珍しいものです。五重塔は、1348年(貞和4年)に建てられ、塔の内側の柱や板壁などには仏画や文様が描かれています。日本中の五重塔の中で、5番目に古いものです。

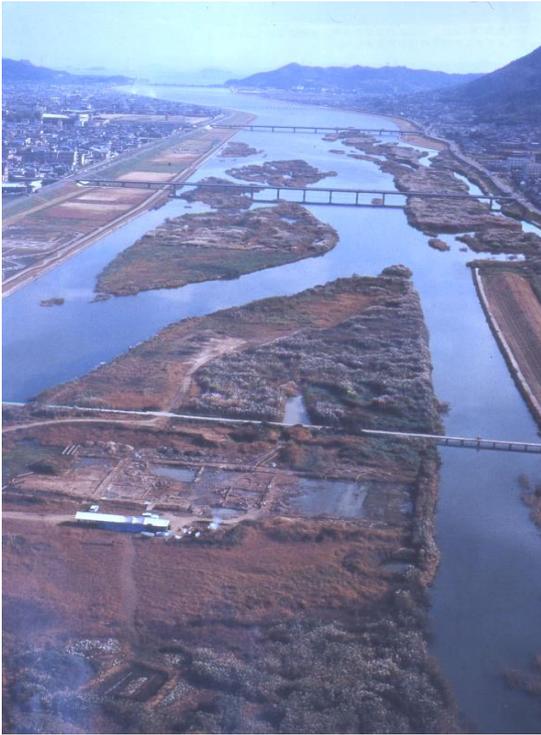


〔明王院五重塔(左手前)と本堂(中央奥)〕

(2) 中世の港町「草戸千軒」



〔中世の海岸線〕



〔草戸千軒遺跡 全景〕

明王院のある草戸町に「草戸千軒」という室町時代の町がありました。明王院の門前町かつ芦田川の河口付近の港町として栄えた町です。江戸時代に書かれた『備陽六郡志』という書物の中に、名前が書かれています。町の様子は書かれていなかったの
で、長い間「幻の町」と言われていました。

1930年（昭和5年）頃の河川工事によって、当時の町が川底から発見されました。1961年（昭和36年）から約30年間発掘調査が行われ、広い町であったことが分かりました。今から500年～800年ほど前の中世の人々の生活が分かるものや、中国・朝鮮の陶磁器やお金が多く発見され、草戸千軒は瀬戸内海から世界に通じていた港町として栄えていたことが次第に分かってきました。現在、広島県立歴史博物館に、草戸千軒の町の様子を再現した模型や出土品が展示されています。

草戸千軒の人々の暮らしなどを、ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）で知ることできるよ。

www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishin/



4 室町幕府と福山

「建武の新政」を行った後醍醐天皇や新田義貞と対立した足利尊氏は、1336年（建武3年）に鞆の浦で、光厳上皇から新田義貞討伐の命令を受けました。その後、義貞を倒し、後醍醐天皇を退位させて、北朝の光明天皇から征夷大將軍の位をさずかり京都の室町に幕府を開きました。

その後、1573年（天正元年）、織田信長により京を追われた室町幕府最後の將軍足利義昭は、毛利氏の支援で鞆城に入り、鞆に拠点を移して信長打倒の機会をうかがっていました。幕府の役職についていた家臣たちも、義昭を頼り鞆に集まったことから「鞆幕府」と呼ばれていました。

鞆の浦で尊氏が上皇の命令を受けたり、足利幕府最後の拠点が鞆にあたりしたこと「足利氏は鞆に興り、鞆に滅ぶ。」と言われています。



〔鞆城跡〕

ふるさと豆知識

能登原(沼隈町能登原)合戦

源平の戦いで平氏の武将、平教経（清盛の甥）が現在の能登原に陣をはったとされています。

教経が能登守という官位であったことから、この地が能登原と呼ばれるようになったとされています。

教経が、弓を立て掛けたという「弓掛け松」は国の天然記念物でしたが、枯れたため、今では、根幹のみが残っています。

また、教経が射掛けた矢の一本が刺さったのが「矢ノ島」で、矢は根をおろし竹が生い茂ったという伝説があります。



〔弓掛け松〕



〔矢ノ島〕

江戸時代

1 福山城築城と城下町整備

(1) 江戸時代の福山城

福山城は、1619年（元和5年）に水野勝成が築いた城です。水野氏、松平氏、阿部氏と明治になるまで、福山藩の政治の中心となりました。

正式な名前を「鉄覆山朱雀院久松城」と言います。名前の由来は、天守閣の北面を鉄で覆っていたこと、城が備後の南にあり、南を守る神様とされていた朱雀に例えられたこと、松のように久しく栄える城という意味からきています。芦（葦）田川の南に城があるので「葦陽城」とも言われていました。

水野勝成が備後の領主になった時、当時の城であった神辺城から、城を移すことを決めました。その候補地として、簗島（現在の箕島町）、亀寿山（現在の新市町宮内）、常興寺山（現在の福山城）などがありましたが、海にも近く、陸路にも近いことから常興寺山が選ばれました。



〔福山城古写真〕



福山城は本丸、二の丸、三の丸と、
うちぼり内堀と外堀の二重の堀からできています。本丸は、豊臣秀吉の大阪城天守閣をお手本にしたと言われる五層六階の天守閣が築されました。また、その南側には秀吉が建てた京都にあるふしみ伏見城から移築されたごてん伏見御殿がありました。さらに、やぐら伏見櫓、すしがね筋鉄御門、月見櫓、大手門なども京都から移築されました。これらは徳川二代将軍秀忠から築城の時にあた与えられたものです。



〔現在の福山城〕

このように、城の一部は移築されたものですが、この当時、最も進んだ建築技術や土木技術を使って建てられた城だと言われています。



〔伏見櫓〕



〔筋鉄御門〕

(2) 明治以降の福山城

明治時代になると福山藩がなくなり、1873年（明治6年）の「はいじょう廃城令」という法律によって多くの建物がとり壊されました。さらに、1945年（昭和20年）戦争によるくうしゅう空襲によって天守閣と御湯殿が焼け落ちました。しかし、1966年（昭和41年）に天守閣と御湯殿、月見櫓が復元され、天守閣の中には博物館がつけられました。空襲によって焼け落ちることなく残った伏見櫓と筋鉄御門は国の重要文化財に指定され大切に保存されています。



〔天守閣の土台の石垣〕

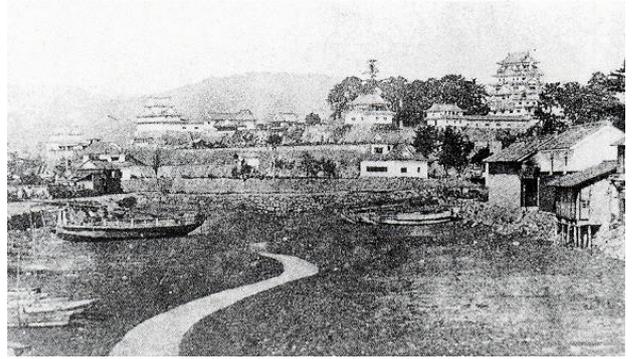


〔福山駅前で発掘された石垣〕

(3) 城下町の成立

福山城築城と並行して城下町の建設も進められました。城下町の南側と西側には藩士が住む侍屋敷が町全体の約3分の2を占め、東側から南東にかけて商人や職人が住む町人町となっていました。

町人町は、大名や武士が生活で必要とするものを作り、できた品物を運んだり、売ったりする役割を持っていました。そのため、城下町南東部の入り川近くの水運に適した場所に配置されました。



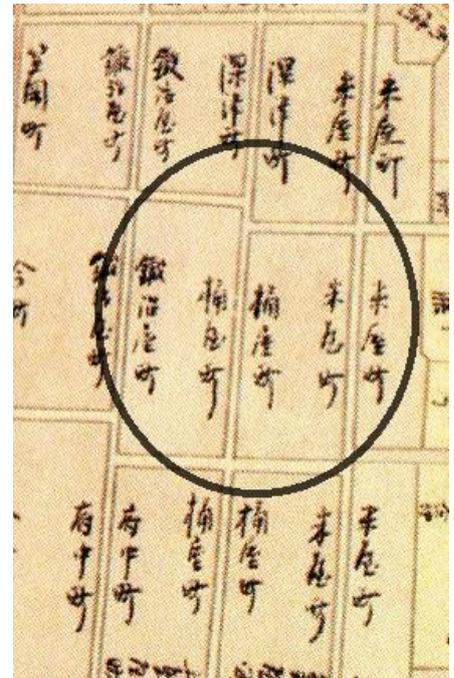
〔福山城南東方面から堀へ続く入り川〕



〔福山城下町図〕

また、これらの目的を効率よく行うために鍛冶屋や桶屋、大工などの職人や商人たちを仕事別にまとまって住ませました。町人町には土地にかかる税金やその他の税が免除され、商人や職人が仕事をしやすくしたため、遠くの国からも多くの人が集まりました。このときの様子を『福山語伝記』では「それぞれが自ら働いて沼地や芦原を埋め立てて家や町並みをつくっている。」と伝えています。

さらに、東側の一部を寺町として寺院を集中させたほか、城下町の外回りに寺社を配置しています。これは戦いが起こった時に、広いお寺の境内を城の周囲に巡らせた^{めぐ}囲いとして利用するための軍事的な理由からでした。こうして、建設当初は12町であった福山の城下町は、多くの人々の努力と開発によって発展し、水野時代にその数は30町にまで達しました。



〔職種を町名とした例〕

◎ 城下町の町名について

城下町の町名の由来は、大きく次の5つに分けられます。

- ① 移住者の出身地を町名としたもの
 - ・ 府中町(府中から) ・ 笠岡町(備中笠岡から)
- ② 職種を町名としたもの
 - ・ 桶屋町(桶屋職人の住居)
 - ・ 大工町(大工職人の住居)
- ③ 位置や成立期を町名にしたもの
 - ・ 本町(開発当初は目抜き通りでもっともにぎやかな町)
 - ・ 中町(神島町と大工町に挟まれた町)
- ④ 縁起を担いだもの
 - ・ 福富町(福にめぐまれ、富を望んだ町名)
 - ・ 大黒町(七福神の大黒様からとった町名)
- ⑤ 開発者の名前を町名にしたもの
 - ・ 奈良屋町(大和郡山〔現奈良県大和郡山市〕より移住した奈良屋の開発による)

「桶屋町」や「鍛冶屋町」という町名が読み取れるね。



これらの町名は1965年(昭和40年)の区画整理に伴い大きく変更され、江戸時代からの伝統的な町名はその多くが廃止されました。

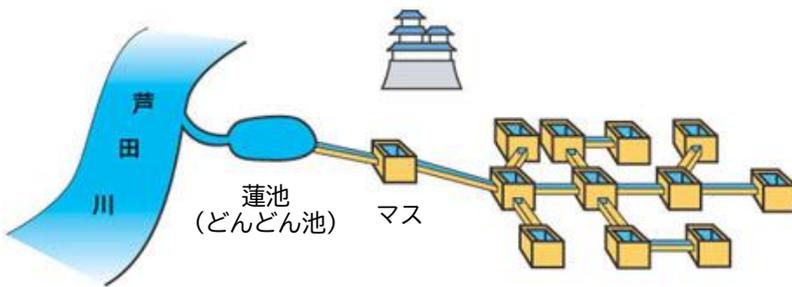
(4) 上水道（旧水道）の整備

福山城が建てられて間もない頃、当時は、城のすぐ近くまで海水が入り込んでいたため、人々が生活に使う井戸水に塩分が混ざっていました。そこで、水野勝成は、城下町に芦田川の水を利用した上水道を整備することにしました。これは、江戸の神田上水などに次ぐ全国で5番目の上水道でした。

1619年（元和5年）に、お城の北側に芦田川の本流を通す計画が立てられ、大規模な工事が始まりました。しかし、その翌年に備後地方は大雨による大洪水に襲われ、建設途中の城下は大きな被害を受けてしまいました。

そこで、計画を一部変更し、芦田川の本流は草戸方面に流し、用水路（現在の吉津川）を蓮池にひいて水に混じっているちりやほこりを池の底に落とし、それから地面に埋めた土管や木管を使って城下に水を流すことにしました。

福山城下の上水道づくりは、多くの困難にぶつかりながらも、決して負けず、人々が力を合わせて成し遂げた大事業であったと言えます。



〔江戸時代の水道の仕組み〕

左の写真は現在の蓮池だよ。池から水が流れ出す場所でドン・ドン・ドンと音を立てたことから「どんどん池」とも呼ばれているそうだよ。



〔木管を覆っていた暗渠〕



〔旧水道の木管〕



〔旧水道の木製のマス〕

(5) ^{かんたく} 干拓事業について

江戸時代は農作物の生産を増やすために全国的に新田開発（新しい農地づくり）が盛んに行われています。福山藩の新田開発は水野家の時代（1619年～1698年）に集中して行われています。

水野勝成は新田開発を進める上で、治水事業（用水路や堤防を造る仕事）に大きな力を注ぎました。芦田川の氾濫を防ぐために頑丈な堤防を造ったり、海岸沿いにも堤防を造ったりすることで、海水の浸入を防ぎながら農業ができる干拓地を増やしてきました。

下の地図は水野時代から明治の初めにかけて干拓により造られた地域を時代ごとに表したものです。芦田川の氾濫から城下町を守るという困難な治水事業に立ち向かい、広い農地を生み出すことによって、福山藩の農業生産力は大きく向上しました。その結果、福山藩が水野勝成へ引き渡された時の石高が約10万石であったのに対し、5代勝岑が亡くなった時の石高は13万2800石余りとなり、水野時代の79年間の開発が、いかに盛んであったのかが分かります。

また、新田開発によって増産されたのは米やその他の穀物ばかりではありません。松永塩田の開発による「塩」の生産や当時の人々がとても必要としていた「木綿」の生産、そして「備後表」の名で現在でも有名な畳表の原料となる「い草」の生産も盛んに行われるようになりました。

積極的な新田開発の結果、「塩」「木綿」「い草」の3つは福山藩を代表する特産物として成長し、藩の政治や経済を支える上での大きな柱とすることができたのです。

ふるさと豆知識 福山の郷土料理「うずみ」

一見するとただの白いご飯。はしを入れてみると、ご飯の下からえびや松茸、里芋などいろいろな季節のおいしい「具」がだし汁とともに現れてくる。これが福山の郷土料理「うずみ」です。

「うずみ」の由来は「埋める」という言葉が語源とされています。江戸時代、農村で暮らす庶民は、収穫した米のほとんどを年貢として納めなければなりません。また、当時は、儉約政治が行われ、庶民が白米やおかずを食べることを贅沢とされていたため、人々の主食は、麦やひえ、里芋や大根などをご飯に混ぜたり、それに汁をかけたりしたものでした。しかし、収穫の日は特別でした。人々は、収穫できたことを神様に感謝し、来年の豊作を祈るため、知恵をしぼり、白米を炊き、野菜や鶏肉、えびなど普段は食べられないようなおかずをご飯の下にうずめ、隠して食べることにしました。これが「うずみ」の始まりとされています。

昭和40年代頃までは、主に収穫を祝う料理として、よく食べられていましたが、食習慣の変化により、次第に家庭や地域で食べられなくなっていきました。今も神辺町の秋祭りでは、「廉塾」の広場で、伝統的なうずみを食べることができます。

福山市では、「うずみ」を郷土の食文化として後世に伝える目的で、平成に入って小学校給食のメニューにも加えています。

また、福山の様々な食材を使って、誰もが食べてみたいと思う「福山ならではの新たなグルメ」を創出するために2010年（平成22年）に「福山食ブランド創出市民会議」を立ち上げました。福山市市制施行95周年には、福山市長より福山の伝統的な郷土料理である「福山うずみごはん」を積極的に発信していく宣言が行われ、「福山うずみごはん」が食べられるお店を記したマップや備後紼の生地を活用した「バナー（布看板）」、市内のうずみ研究グループが製作したマンガ「福山うずみ物語」などでPRに努めるなど、市民の皆さんと一緒にうずみを盛り上げています。最近では、他県や世界に向けても発信できるものになるように、ソフトクリームの下にぶどうや桃などをうずめたり、くわいをうずめたりしたものなど、福山の様々な食材をうずめた「創作うずみ」も登場しています。ぜひ、みなさんも、福山の郷土料理である「うずみ」を味わってみてください。



ふるさと豆知識

まほろし 幻の焼き物 ～姫谷焼～ ひめたにやき

江戸の初期に深安郡広瀬村大字姫谷（現在の福山市か茂町百谷^{ももだに}）で、有田焼^{ありたやき}、九谷焼^{くたにやき}と並び日本の「初期三赤絵^{あかえ}」に数えられる姫谷焼の生産が陶工・市右衛門^{いちえもん}により行われていました。生産が行われた期間がおおよそ約20年と短いこと、現存する作品が100点余りとあまり多くないこともあり、長く「幻の焼き物」と呼ばれていました。しかし、姫谷焼の窯跡^{かまあと}の存在が明らかになり、1969年（昭和44年）から行われた発掘調査^{はっくつ}により、色絵のほかに染付^{ぞめつけ}・白磁^{はくじ}・青磁^{せいじ}・陶器^{とうき}なども製作していたことなどが分かりました。作風は薄手^{うすて}の白磁にすっきりと画題を描いており、清楚で純日本風なものが多く見られます。



このように福山では当時の最先端^{さいせんたん}の赤絵技術を用いた優れた作品が早くから作られていたのです。
 (注) 近年の発掘調査で九谷焼の色絵磁器片が有田町で多数見つかり、古九谷は有田産という説が有力となっている。

2 海運の拠点 鞆

(1) 鞆の歴史ある町並み

鞆は古くから、瀬戸内海の潮の満ち引きの関係で、東西の船が集まる「潮待ちの港」として栄え、交通の重要な拠点として発展しました。

江戸時代には、東北と大阪を結んだ北前船の寄港地として物流の拠点となり、鞆には、ばく大な財を築いた商人が数多く生まれました。そのため豪商の屋敷や蔵が立ち並ぶ豊かな町並みが作られました。



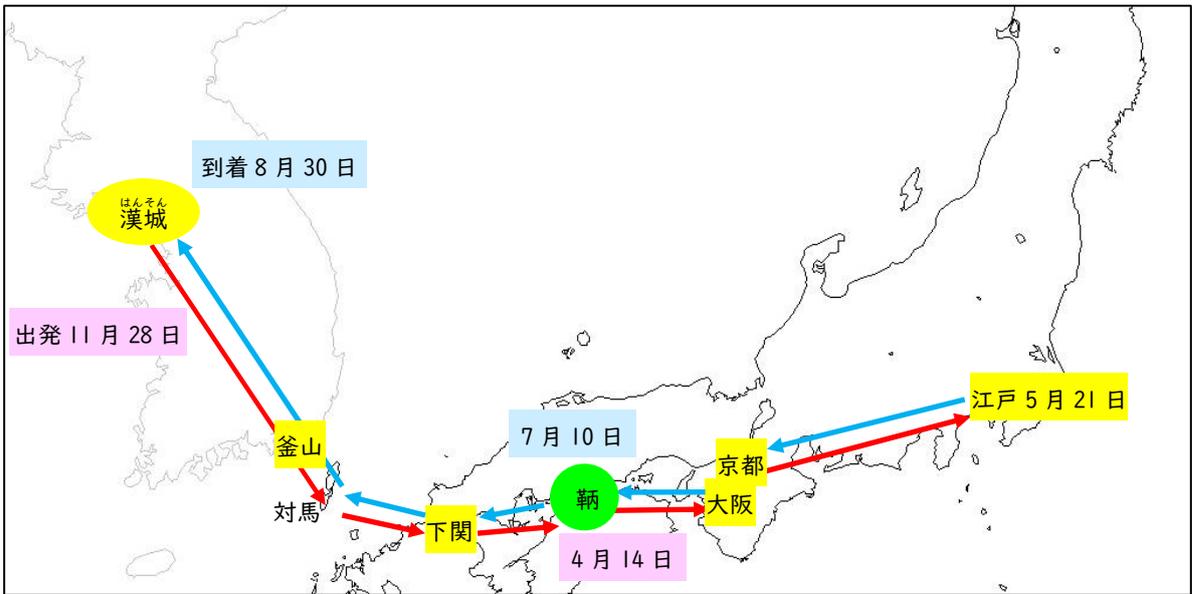
〔太田家住宅〕

近世になって、蒸気船などの動力を持った船などが登場すると、次第に鞆の浦で潮待ちをする必要性は薄れ、さらに明治に入って陸上交通が主流となると、鞆の拠点性は低下しました。現在では鞆港への商船の出入りはほとんどありません。しかし、このことにより多くの古寺や江戸時代の情緒^{じょうちよ}を持つ古い町並みが今に残る要因ともなり、観光地としての鞆の魅力を引き立てています。

(2) 国際都市 鞆

鞆が「海の駅」として果たした仕事のうち最大のものは朝鮮通信使の接待でした。豊臣秀吉が行った朝鮮出兵以降、友好関係にあった朝鮮と日本との関係は途絶えていました。

しかし、江戸幕府は長崎の対馬藩を仲立ちとして朝鮮との国交回復に努め、1607年（慶長12年）に第1回の朝鮮通信使の訪問が実現しました。その後、幕府は鎖国政策をとり、海外との行き来を禁じましたが、朝鮮通信使は12回も日本を訪れています。



〔1748年の朝鮮通信使の道のり（全276日）〕

幕府は将軍の代替わりごとに来日した通信使一行を国賓として迎えたため、軺の浦で11回の通信使を迎えた福山藩にとって、その接待は大変重要でした。

通信使一行には、役人だけでなく優れた学者や書家、画家、音楽家などの文化人も含まれていたため、日本の学者は外国の文化に触れようと通信使の宿舎を訪ね、筆談（共通の文字である漢字を書いて会話する）で、漢詩を交換し合ったり、質問し合ったりしました。

福禅寺對潮楼には、今でも通信使の書が多く残っています。1711年（正徳元年）の第8回通信使の従事官李邦彦は、宿泊した對潮楼から見た軺の景色を「日東第一形勝」（朝鮮より東の世界で一番景色の美しい場所の意味）と賞賛しました。また、朝鮮通信使だけではなく、琉球使節やオランダ商館長なども、江戸への行き帰りに軺の浦を訪れ、海外文化の交流が行われました。瀬戸内の重要な港町であった軺の浦は、まさに海外から多くの人々や文化を迎え入れた「国際都市」だったと言えます。



〔朝鮮通信使と談笑する福山藩士〕



〔福禅寺對潮楼から見た瀬戸内の風景〕

(3) 鞆での受け入れ

朝鮮通信使は、その度ごとに人数が変わりますが、500人前後の大使節団でした。それに水先案内をつとめた対馬藩の役人が約500人で、合計1000人以上の人々が海や陸の大移動したのです。

鞆の浦では、福山藩の役人や食事・宿泊の世話をする人たちが、さらに約1000人以上もの人々が狭い鞆の町にあふれました。宿はお寺や大きな商家があてられ、一般の人々と通信使との様々な文化交流が行われました。

右の表は『福山藩覚書』に記されている1711年（正徳元年）の朝鮮使節一日分必要物品です。これら通信使の接待にかかる経費はすべて福山藩の負担となり、その分、福山の人々の税や仕事は増えたと考えられています。

品物	数量	品物	数量	品物	数量	品物	数量
白米	833 升	鶏	30 羽	里芋	76.5 升	釣柿	
酒	275 升	生鮑	22 コ	ねぎ	71 把	炭	
みそ	174 升	鮮大鯛	61 枚	せり	30 把	薪	
しょう油	65.75 升	するめ	912 枚	かぶら	207 本	豚	
酢	42.1 升	鰹節	122 本	人参	207 把	いのしし	
塩	70.8 升	卵	2168 コ	九年母	116 コ	以上は正史から下官までの朝鮮使節団の一日分、船頭分は別になっている。また、銀933匁が通詞小者・僧侶などへの手当として計上されている。	
ごま油	37.6 升	こしょう	409 匁	ゆず	116 コ		
ろうそく	(50目)24挺 (40目)104挺	小麦粉	12.2 升	しょうが	11.5 升		
お茶	22 貫	小豆	26 升	干鯛	106 枚		
たばこ	7貫150目	辛子	6.3 升	干菓子	16 袋		
雉子	31 羽	大根	1313 本	栗	51 コ		
		ごぼう	10313 本	みかん	3177 コ		

〔1711年（正徳元年）朝鮮使節一日分必要物品〕
『福山藩覚書』

ふるさと豆知識

シーボルトの上陸

鞆の記録『中村家日記』には、オランダ使節の船が1826年（文政9年）に江戸からの帰り道、鞆の浦に寄港し、宿泊したことが記されています。その記録の中には「…外科オランダ人は山々を見物して草木・鉱石を拾い集め、ついでに町内の見物をした」という記述が見られます。実はこの「外科オランダ人」とは長崎に鳴滝塾を開き、高野長英など多くの塾生に西洋の医学や博物学を教えたシーボルトだったのです。



〔シーボルト〕

鞆皿山窯跡

鞆町皿山には、皿山窯跡があります。これは、保命酒用の徳利や燈明皿、すり鉢などを焼いていた12連式の登窯です。この窯は、1865年（慶応元年）に、保命酒醸造元の中村吉兵衛が作り、1938年（昭和13年）まで使われていました。ここの焼き物は、遠く新潟県でも見つかり、北前船に積まれて広く全国に伝わっていたことが分かります。



しかし、明治以降、保命酒保存には、ガラス瓶などが使われるようになったため、窯は使われなくなり、やがて途絶えました。

地域の人々は、地元に残されたこのような歴史遺産をぜひ復元し、保存していきたいと願っています。

3 神辺本陣と近世山陽道

江戸時代には、各地で江戸に通じる街道の整備が進みました。備後地方でも都と九州を結んでいた古代山陽道を南寄りの道に変えた西国街道（近世山陽道）が整備されました。神辺と今津は西国街道における宿場町として栄えました。

(1) 神辺本陣

本陣とは、江戸時代に参勤交代の制度による大名行列の一行が泊まるための施設です。

神辺には、山陽道では珍しく本陣が西本陣・東本陣と二つもありました。現在は、尾道屋菅波家が営んでいた西本陣がほぼ当時のまま残され「神辺本陣跡」として広島県史跡、建物7軒は広島県重要文化財に指定されています。



〔神辺本陣〕

筑前（現福岡県）黒田家当主の記録には、1854年（嘉永7年）4月26日に黒田家の者1500人が、分宿を含めて泊まったと記されています。

黒田家以外は、ここより350m東にある七日市の本荘屋（東本陣）が主に務めたとされています。西本陣には、大名や公家、幕府役人が宿泊した時に門前にかかげた関札（木札）が数多く伝わっています。

神辺には、三日市や七日市などの町名が残っているよ。町の名前と様子には、何か関係があるのかな。



(2) 神辺本陣の建物の様子

神辺本陣は、主屋（平屋建て・本瓦葺き）、店、住居などの建物と、門や敷地を囲む塀からなっています。

1748年（延享5年）に建てられた主屋は、御成の間、二の間、三の間、札の間、玄関、敷台があり、当時の面影をよくとどめています。



〔玄関と敷台〕



〔御成の間(奥)と二の間(手前)〕



〔大名の名を記した関札〕

本陣は約1000坪あり、大名が宿泊する時は27部屋、畳数200余枚が使用され、70人ほどが宿泊したとされています。1回の参勤交代で約600人が宿泊するので、本陣以外に、近くの寺や町家などにも分宿していたようです。

緊急避難所は、本陣北側の万念寺ばんねんじが指定されていました。



本陣前の街道は、直角に曲がった角が続いていたよ。何のためにそんな道路をつくったんだろう。



ふるさと豆知識 今津本陣跡

備後地方には、1602年(慶長7年)に西国街道が整備された際に、今津にも本陣が設けられました。幕末には、戸数300戸以上、商家軒を連ねて町をなし、駒馬5頭を備えて、本陣を中心にして、にぎわったと言われています。現在も表門、堀、石垣などが、当時の面影を残しています。

4 寺子屋, 私塾, 藩校

福山藩では、当時は村役人以外の農民はほとんど読み・書きができませんでした。そんな中で寺子屋が作られ、19世紀に入って急速に増加していきました。

(1) 寺子屋

農民や町人に読み・書き・そろばんを教えるところであり、多くは寺で行われていました。福山藩内では49の寺子屋が確認されています。



〔寺子屋の様子〕

(2) 私塾

江戸時代、学問の修行の場として、多くの学者が「私塾」を開きました。神辺では、菅茶山が「黄葉夕陽村舎」（後の藩校廉塾）を開き、神辺・福山はもとより、四国・九州・奥羽など全国からやってくる子どもたちを指導しました。

福山藩内にはその他に、福山西町の就正堂、今津村の大成館があり、主に漢学と詩文を教育していました。



〔黄葉夕陽村舎（廉塾）〕

(3) 藩校

江戸時代、各藩は武士の教育のため藩校を設立しました。福山藩では、1786年（天明6年）、藩主阿部正倫が弘道館を設立しました。弘道館では毎日儒学者が漢学を中心に指導し、剣術などの武芸は、他の道場に通って学んでいました。ここでは、武士だけが学ぶことを許されていました。

鎖国政策をとっている中アメリカのペリーが来航するなど、日本中が混乱を迎えた幕末、阿部正弘は、新しい考えをもった有能な人を育てていく必要性を感じ、1855年（安政2年）「弘道館」を「誠之館」と改め、身分に関係なく弓、槍、剣術などの武芸や国学、洋学、医学などの文芸を学ばせる新しい藩校を設立しました。



〔誠之館記念館〕

ふるさと豆知識

誠之館記念館

現在広島県立福山誠之館高等学校にある誠之館記念館は、現在の「学びの館ローズコム」の辺りにあった藩校「誠之館」の玄関の建物です。藩校が閉校になったあとも師範学校や広島県立福山中学校の玄関として使用されました。昭和になり、県立福山誠之館中学校が三吉町に建てられた際、誠之館記念館として増築され、誠之館高等学校の木之庄校舎の建設に併せて現在の地に移転されました。

5 飢饉、自然災害と一揆

江戸時代の中頃から、大規模な百姓一揆が全国に発生し始めました。

福山藩も例外ではなく、水野氏・松平氏の時代には発生しなかった百姓一揆が、阿部氏の時代になると見られるようになりました。

1782年(天明2年)、東北地方を中心に起こった冷害や浅間山の大噴火によって全国で大飢饉が発生しました。

福山でも、1782年(天明2年)から1788年(天明8年)にかけての長雨・洪水・冷害などによる凶作や、虫害による稲・木綿の大凶作などにより、「天明の大飢饉」が起こり、米価が高騰しました。

藩は、凶作にも関わらず、従来と同じ量の年貢納入を迫り、厳しい取り立てを続けたため、百姓たちの生活状況は限界に至り、餓死する人も多く、草の根や木の皮、壁の土まで食べ尽くしていました。

そんな中、1786年(天明6年)12月6日未明に、品治郡服部(今の駅家町)蛇円山の山頂から火の手が上がり、それを合図に追いつめられた備後五郡の5万人を超える百姓たちが蜂起しました。百姓たちは今の神辺町徳田の庄屋宅で藩の役人へ30カ条の要求を出して交渉しましたが、一揆の要求は拒否されました。

1787年(天明7年)の正月に再び藩領全域にわたって、百姓たちは蜂起しました。領内を流れる芦田川一帯で篝火をたき、隣の岡山藩側に越境して一揆が発生していることを宣伝しました。藩主はこの事態を重く見て、百姓の要求を受け入れ、未納の年貢や高利の借金の帳消しなどを認めました。

この一揆は、1人の犠牲者も出さなかったうえに、百姓の要求が通るといふ、百姓側の勝利で終結しました。そのため、全国的にも珍しい一揆として知られています。

ふるさと豆知識

福山藩で起こった一揆

1717年(享保2年)	品治・芦田郡で発生する
1753年(宝暦3年)	深津・安那・品治・芦田・沼隈郡で発生する
1770年(明和7年)	安那郡で発生する
1786・7年(天明6・7年)	品治・芦田郡で発生し、藩内へ広がる
1831年(天保2年)	事前に藩に知られてしまい、未遂で終わる

6 幕末の福山

(1) 鞆七卿落遺跡

この遺跡は、1863年(文久3年)8月18日の政変で都を落ちて長州へ下る途中、三条実美ら7人の公卿らが、鞆の津(今の鞆港)の保命酒醸造元で廻船問屋も営んでいた中村家に宿泊し、翌1864年(元治元年)にここで争議を重ねたと言われています。現在は、所有者、太田氏の名をとって、「太田家住宅」「太田家住宅朝宗亭」と命名され、国の重要文化財になっています。三条実美ら7人の公卿たちはここで傷ついた心と体を休めたそうです。



〔鞆七卿落遺跡(太田家住宅)〕

世にならす 鞆の港の竹の景を

かくてなむるも めづらしの世や (実美)

(訳) 有名な、鞆の港の保命酒を、
本来京にくらす我々が地方に下って飲んでいるとは、世の中も変わったものだな。

実美が鞆で詠んだ歌だよ。



公卿は、公家の中でも、太政大臣・左大臣・右大臣・大納言・中納言・参議らの位の高い官職の人たちのことです。

彼らは、この後、明治新政府で重要な役割を果たすことになります。



ふるさと豆知識

「鞆七卿落遺跡」は、「旧保命酒屋」

主屋の奥に入ると、白壁の酒蔵がありそこに酒類醸造に使われていた、大きなかめや炊事場(カマドや羽釜)、酒をしぼる酒槽とハネ棒、つるされた大石などを見ることができます。大勢の職人が酒造りをしていた様子が分かります。

また、建物の天井の梁の太さに驚かされます。今から約270年前に建てられたとは思えないような重厚なつくりになっています。



(2) いろは丸事件

坂本龍馬と海援隊士らに乗せた「いろは丸」は、1867年(慶応3年)4月19日長崎を出港し、瀬戸内海を東に大阪へと向かっていました。

いろは丸は、海援隊が伊予大洲藩から1航海500両で借り、この時が海援隊の初航海でした。しかし、4月23日深夜、鞆の沖で紀州藩の「明光丸」と衝突しました。

この事件を巡り坂本龍馬は、紀州藩「明光丸」の船長・高柳楠之助と賠償交渉を行いました。その場所となったのが、町役人魚屋萬蔵宅で「いろは丸事件談判跡」として石碑が立っています。今は、宿屋になっています。また、いろは丸乗組員たちの宿となった、江戸時代の廻船問屋・枳屋清右衛門宅も現在残っています。

交渉は場所を長崎に移し行われましたが、龍馬は「万国公法」に則り、徳川御三家の一つであった紀州藩と対等に渡り合い、多額の賠償金を得ることに成功しました。



〔魚屋萬蔵宅跡〕



〔枳屋清右衛門宅跡〕

ふるさと豆知識

鞆と坂本龍馬

鞆での坂本龍馬と紀州藩側との賠償交渉の経過は、『備後鞆津応接筆記』に残っています。この文書は、「備後鞆津ニ於テ才谷梅太郎紀州高柳楠之助等ト應接筆記」と書かれており、交渉にあたる時、暗殺者に対する用心のために坂本龍馬は、「才谷梅太郎」と名乗っていたようです。



〔いろは丸記念館〕

鞆の「いろは丸記念館」には、沈没船の調査の結果発見された鉄片等が展示されているよ。



ふるさと豆知識

喜多流 大島能楽堂

－ 福山から発信する伝統文化「能楽」－



これは、光南町にある西日本では唯一の、個人が建てた本格的な能楽堂だよ。日本が世界に誇る能楽をこんな間近で楽しめるなんてすごいね。



〔喜多流 大島能楽堂 能舞台〕

「能楽」は、室町時代に生まれ、今では日本が世界に誇る舞台芸能の一つです。桃山時代には、豊臣秀吉も能を好み、戦陣にも組み立て式の能舞台を持ち込むほどでした。その能舞台は、福山城が建てられたところ水野勝成が譲り受け、城内で組み立てられ、能が演じられたと伝えられています。現在は、鞆の沼名前神社境内に移され、国の重要文化財に指定されています。



〔鞆 沼名前神社能舞台〕

喜多流は、江戸時代初期に、将軍徳川秀忠の後押しを受け生まれた流派です。水野勝成の時代には武家に、阿部正弘の時代には武家に加え町人にも流行し、盛んに演じられました。

大島家は全国で20家ある喜多流宗家直系の「職分」（プロの能楽師、宗家以外では最高の職位）として、明治以降、備後一円に能楽を普及させました。

1914年（大正3年）、2代目大島寿太郎が、霞町に大島能楽堂を建てました。1945年（昭和20年）の空襲で一度は焼失してしまいましたが、1948年（昭和23年）3代目大島久見が舞台を光南町に再建し、1971年（昭和46年）の舞台の建て替えや1997年（平成9年）の座席の改修を経て現在に至っています。

1958年（昭和33年）から定例鑑賞能を開催し、各地からの能楽ファンの期待に応えています。

「大島能楽堂」では、衣装を着ての能楽体験をすることができるんだよ。申し込みば、学校に出張授業にも来てくれるよ。



〔川口東小学校6年生のみなさん〕



〔南小学校6年生のみなさん〕



明治～昭和

1 廃藩置県と福山

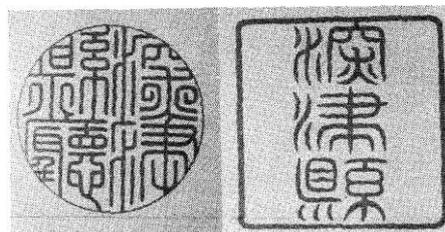
明治に入り、廃藩置県により、1871年(明治4年)7月に福山藩がなくなり、福山県となりました。その後、福山県をはじめとする近隣の県が統合され深津県になりました。

深津県には、備後(沼隈・芦田等)と備中(倉敷・高梁等)が含まれ、現在の広島県と岡山県が混ざった形になっていました。

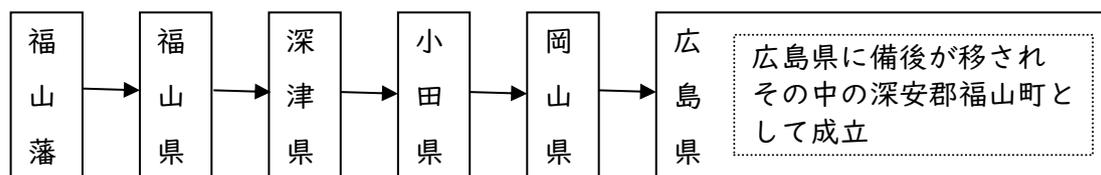
さらに1872年(明治5年)6月には、笠岡を県庁とする小田県となりました。(備中11郡・備後6郡・人口約50万人)。

1875年(明治8年)12月、小田県は岡山県に合併され、1876年(明治9年)岡山県から、備後6郡が分離して広島県へ移りました。

政府が国会開設の勅諭を出し、地方でもそれにみあう諸制度の整備が必要だったことから、市制・町村制を取り入れることになり、芦田・品治両郡を芦品郡、深津・安那両郡を深安郡として統合し、深安郡の福山町が成立しました。



〔深津県の印〕



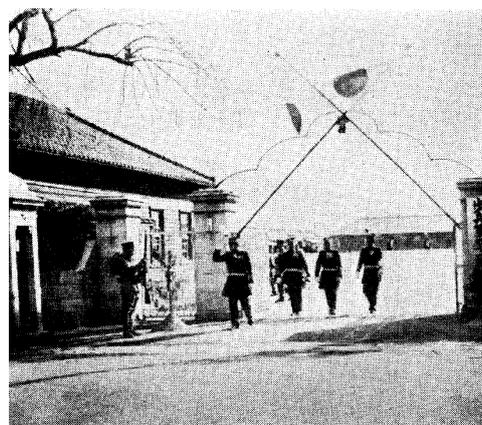
〔福山町成立までの流れ〕

2 福山市の誕生

(1) 野上・三吉両村の合併

1908年(明治41年)「歩兵41連隊」が福山に配置されました。また、両備・鞆の両軽便鉄道が開通したことで、福山の町を行きかう人々が増えました。

1913年(大正2年)には、野上・三吉両村と合併し、人口・戸数が増加しました。このことで、市制施行の条件をほぼ満たすこととなり、市制化が進みました。



〔歩兵41連隊正門〕

	合併前	合併後
人口	20261人	24802人
戸数	4967戸	6046戸

〔野上・三吉村との合併前後の福山町〕

正門は、今の緑町公園あたりだったんだよ。



(2) 市制施行

1916年(大正5年), 県知事あてに福山町を福山市にする意見書が出され, 7月1日に福山町から福山市になりました。阿武信一前町長が, 市長臨時代理として仕事を行っていましたが, そのまま初代福山市長として任命され就任しました。

(3) 福山市旗章

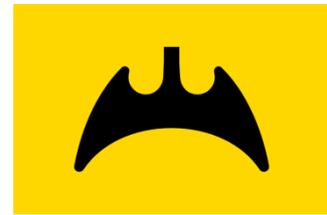
市旗章は, 黄色地に黒の“こうもり”を「山」の字にデザイン化したものです。この市旗章の作成には, 市制施行当時, 有名建築家として活躍していた福山出身の武田五一がかかわっています。

福山城の付近はかつて蝙蝠山と呼ばれており, こうもりは本来, 中国思想の影響から縁起の良い動物とされ, 「蝠」は福に通じることと初代藩主水野勝成が「福山」と名づけたとする言い伝えに基づいてモチーフが選ばれました。

近年では, 「市の花」として, ばら(1985年制定)と菊(2003年制定)があり, ばらを模したシンボルマークが市の出版物に描かれていたり, 市の施設などばらにちなんだ名称が使用されたりと, ばらが「市章」に準じたものとなっています。



〔当時の新聞記事〕



〔福山市旗章〕



〔ばらのシンボルマーク〕

ふるさと豆知識

武田五一

福山藩出身の建築家で, 「関西建築界の父」とも言われています。近代日本を代表する建築家の1人です。ヨーロッパに留学し, アールヌーボーなど, 新しいデザインを日本に紹介しました。国会議事堂建設をはじめ多くのプロジェクトにかかわっています。



市制施行と近代水道の建設

明治期の終わりごろ, 江戸時代の旧水道の老朽化や福山の発展のため, 近代水道の建設が計画されました。しかし, 建設には多額の費用がかかり, 国からの補助金を受ける必要がありましたが, 補助を受けるには市制施行が条件であったため, 計画は進みませんでした。

そこで, 近代水道の建設を実現させるためにも, 早期の市制施行が望まれるようになりました。1916年(大正5年)の市制施行が整ったことにより, 念願の近代水道建設計画は実行に移され, 1925年(大正14年)に熊野町に作られた貯水池を水源とする, 佐波浄水場が完成しました。この近代水道は, 福山の発展に大きく貢献する施設となりました。旧佐波浄水場の施設の一部は, 国の登録有形文化財に登録されています。



〔旧佐波浄水場〕

3 福山大洪水

昔から、福山市民の生活を支えてきた芦田川はたびたび、大雨などによる堤防の決壊により、人々を苦しめる大水害を引き起こしてきました。

とりわけ、市制施行間もない1919年（大正8年）7月の水害による被害は甚大なものでした。連日の豪雨で水位の増していた芦田川の堤防が決壊し、現在の古野上町、霞町辺りに一気に水が流れていきました。鷹取橋付近では、水かさ4.15mを記録しています。

福山市内は、見渡す限り泥の海と化し、公園や小高い所は避難者であふれ、被災した人々に対する炊き出しは、長い所で12日間も続きました。もちろん汽車・郵便・電話・電信の多くは止まっていました。

市制施行以来、都市づくりを進めてきた福山は、この大水害を経験し、都市としてより発展するためには、芦田川の治水が必要であると考えました。議会だけでなく、市民もさまざまな対策を考えているさなか、9月に再び豪雨が降り、応急修理していた各地の堤防が決壊し、神辺一带、西部地域は水に浸されました。5月の大水害ほどの被害はありませんでしたが、数名の命が失われています。

今のわたしたちのくらしからは想像できない苦労があったんだね。



〔芦田川堤防切れ口〕

死傷	25人
全壊・半壊・流失家屋	271戸
床上浸水	4215戸
床下浸水	1177戸
堤防決壊・破損	806か所

〔被害状況〕



〔濁流により倒壊した民家〕



〔被災市民による炊き出し〕

福山の人々は古くから芦田川の洪水に苦しめられ、その度、町を復興させ続けてきました。また、洪水が起こらない川の流れに改修する工事も長年にわたり行われるなど、今のわたしたちの安全なくらしがあるのは、芦田川と闘った人々の苦勞のおかげなのです。

年	できごと
1923年（大正12年）	改修工事を始める
1945年（昭和20年）	台風による大洪水後、復旧作業を開始 1961（昭和36）年にほぼ完了
1967年（昭和42年）	中津原浄水場の送水開始
1977年（昭和52年）	高屋川の改修
1981年（昭和56年）	芦田川河口堰完成
1998年（平成10年）	上流に八田原ダム完成

〔芦田川の改修〕



〔八田原ダム（H10.3完成）〕



〔中津原浄水場（S42～）〕



〔高屋川の改修（S52～）〕



〔草戸千軒掘削（H4～H14）〕



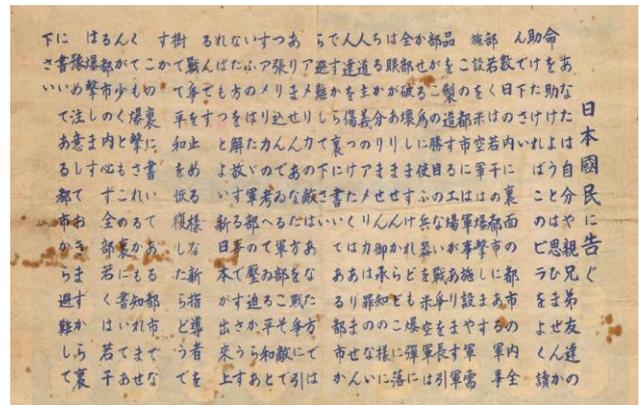
〔芦田川河口堰（S56.6完成）〕

4 福山大空襲

(1) 空襲

アメリカ軍の本土空襲が全国に拡大される中、福山地区への空襲は1945年（昭和20年）3月19日から始まりました。最初は、大津野村にあった福山海軍航空隊が、空母艦載機によって繰り返し銃撃を受け、7月になると、市街地への空襲を予想して市中心部の建物疎開が始まりました。

7月31日の夜、アメリカ空軍が約6万枚の空襲予告の伝単（ビラ）を投下しました。



〔空襲予告の宣伝ビラ表・裏〕

福山市街地への空襲は、1945年（昭和20年）8月8日、午後10時25分頃から、約1時間にわたって、B29爆撃機91機によって行われました。警戒警報発令の約10分後に空襲警報が発令されましたが、この時すでにB29の大編隊は福山市上空に達していました。B29から、最初に照明弾が、その後焼夷弾が次々に投下され、市の周辺部各所から一斉に火災が発生しました。B29は、高度4000mぐらいから次第に高度を下げながら市街地への波状攻撃を繰り返し、約556tもの焼夷弾を投下しました。

全市は、たちまち火の海と化して、福山市街地は壊滅的な被害を受けました。

種類	収束爆弾 (M17型)	油脂焼夷弾 (M47型)	合計
数量(発)	1666	4035	5701
重さ(t)	416.5	139.2	555.7

〔焼夷弾の数量〕

犠牲者数	355人
重軽傷者数	864人
焼失家屋数	10179戸
被災人口	47326人
市街地焼失面積	314ha 市街地の約80%

〔被害状況〕



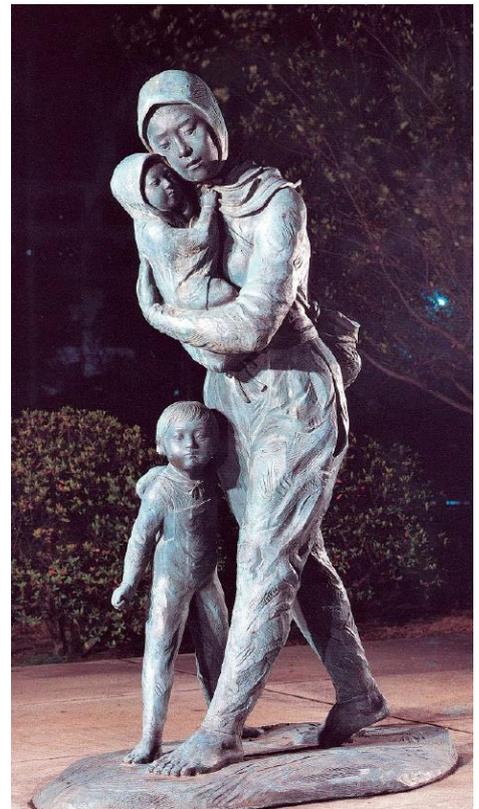
三吉町の藤原邦子さんが描いた『ほのお炎に包まれる市街地』の絵だよ。

藤原さんは、敵機が帰っていくのを見たそうだよ。おそ恐ろしい様子が伝わってくるね。



ふるさと豆知識 被災母子の目撃談 もくげきだん

8月9日の朝、ほて火照るような暑い市中に入り、住吉町の水田の中に、母子3人の焼死体を見つけました。母親は四つんばい這いになり、胸にすがりついた赤ちゃんを、片手でしっかり抱きよせ、まるで乳を飲ませるような格好でした。そして、その母親の後ろ足を6歳さいくらいの子が両手でしっかりつかまえて、ひざまずいていました。着物などは焼けてしまって、いた遺体はまるでろう人形のようなものでした。水田の中に入っていれば、水があるので助かると思ったのですが、いね稲は焼け、水はか枯れて母子は蒸し焼きになってしまったのです。



〔母子三人像〕

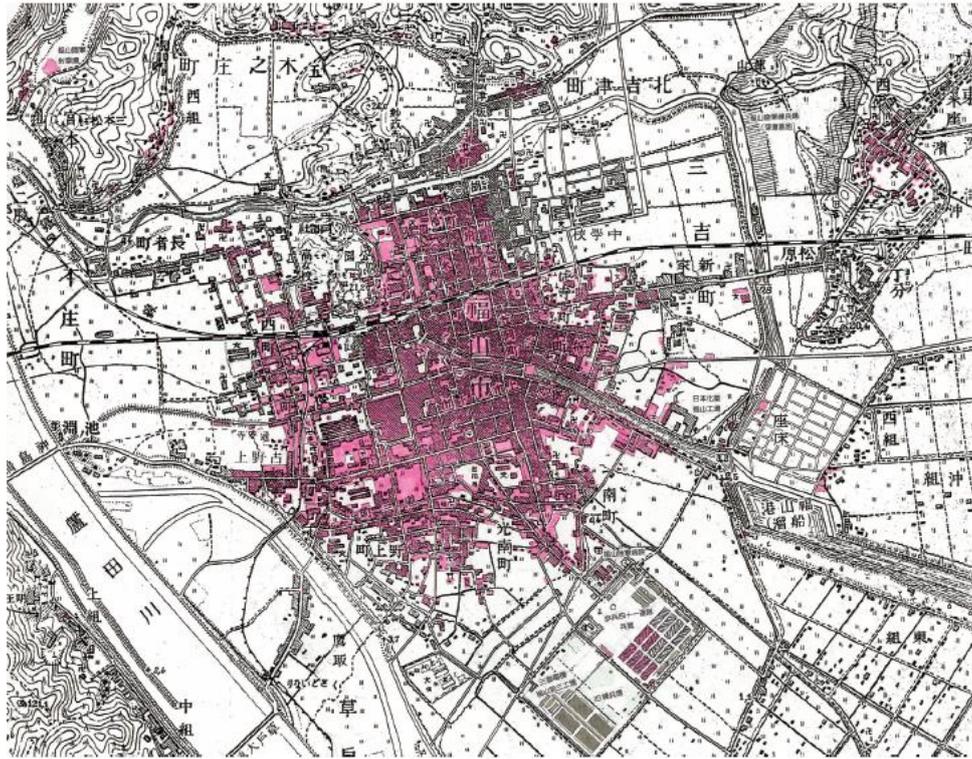
空襲後の市街地の様子



〔御船町から西を望む〕



〔住吉町付近〕



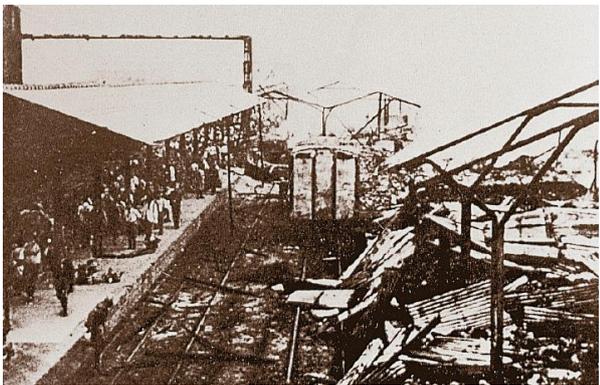
〔福山被災地域図〕



〔空襲後の街の様子〕



〔現在の街の様子〕



〔焼け落ちた福山駅〕



〔現在の福山駅〕

5 戦後の復興

(1) 市場の開設（福山市公認市場）

1945年（昭和20年）8月8日の福山大空襲で市街地の約8割が焼かれ、その一週間後に敗戦をむか迎えました。福山市民は、絶望の中から立ち上がり、復興へ向けて力強く活動を始めました。



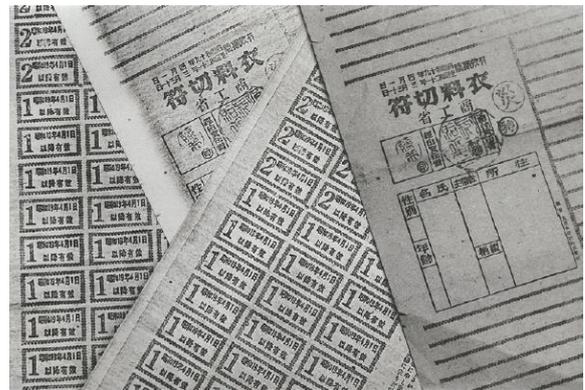
〔1951年（昭和26年）頃の福山駅〕

終戦後の福山には、戦争中の重苦しいあっぱく圧迫感とは異なり、開放感があふれていました。

そうした中で、生活物資の不足は市民の復興に向けた活動さまたを妨げました。当時は戦争中に引き続いての配給制でしたが、物資不足のために配給される物資そのものがごくわずかしかなかった。



数量が十分でない物資をわりあて、配る制度のことを、「配給」って言うんだよ。
戦争中にはガソリン、米、砂糖、マッチ、衣類などが配給されていたんだよ。



〔衣類の配給を受けるための切符〕

そこで、福山市はこうした生活物資不足に対する対応策として、1946年（昭和21年）2月、福山駅前西側に生活必需物資総合配給所ひつじゅを開設しました。物資のスムーズな流通をはかるために、信用ある商人に集荷から配給までをゆだ委ねるという画期的な解決策が決定されました。その後、総合配給所は福山市公認市場としてスタートすることとなりました。

ふるさと豆知識

コレラの流行

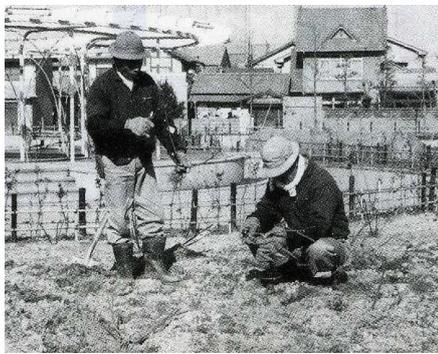
コレラは食物に混じって、コレラ菌きんという細菌が体内に入り感染かんせんする病気です。1946年（昭和21年）の6月に福山で10名の患者が発見され、2名が死亡しました。市はただちに予防活動を開始しましたが患者数は急増し、広島県は福山市への人の出入り禁止を指示しました。7月26日に指示が解かれるまでの患者総数は114名、うち30名が死亡しました。

(2) 住宅の建設

戦災を受け住宅を失った人たちが、戦争から戻ってきた人たちへの住宅の建設も緊急を要しました。1946年（昭和21年）、6畳と2畳に玄関・押し入れ・便所・建具付きの簡易住宅1000戸が建てられました。

(3) ばらのまち福山

戦争や空襲による傷がまだ福山のまちや人々の心に残る1950年代半ばのことです。南公園（現在のばら公園）付近の住民により「荒廃した街に潤いを与え、人々の心に和らぎを取り戻そう。」と、ばら苗約1000本が植えられました。この苗が、「ばらのまち福山」のスタートなのです。



〔地域住民がばらを植栽している様子〕



〔現在のばら公園〕

ばらのまちを目指した福山の取組は、
【今・未来】「ばらのまち福山」にくわしく載っているよ。



2 市域の拡大と中核市移行

(1) 市域の拡大

1916年（大正5年）7月1日、広島県下では、広島・尾道・呉について4番目、全国では73番目の市として福山市が誕生しました。面積は5.8km²（東は三吉町、西は西町、南は沖野上町、北は福山城公園まで）、人口は3万2356人でした。市制施行後は、当時の市域の9割が被害にあった大水害などの困難を乗り越え、上水道の敷設、芦田川の改修などに取り組みました。



〔市制施行記念はがき〕

1933年（昭和8年）に隣接10か村、1942年（昭和17年）に2か村との合併により市域を拡大しましたが、1945年（昭和20年）8月8日、戦災により市街地の8割を焼失しました。しかし、市民の強い復興意欲と郷土愛によって、翌年から戦災復興事業として土地区画整理事業に着手するとともに、1956年（昭和31年）には隣接10か町村と合併し、国道などの整備を進め、山陽・山陰と四国を結ぶ産業・文化・交通の拠点都市として急速に成長しました。

古くから地場の繊維産業を基盤としてきましたが、1961年（昭和36年）、世界最大規模の日本鋼管（株）福山製鉄所の立地決定により、重工業主体の産業都市へと転換し、製鉄所操業開始とともに、瀬戸内海の臨海工業都市として脚光を浴びることとなりました。



〔製鉄所ができる前の引野（皿山）沖〕



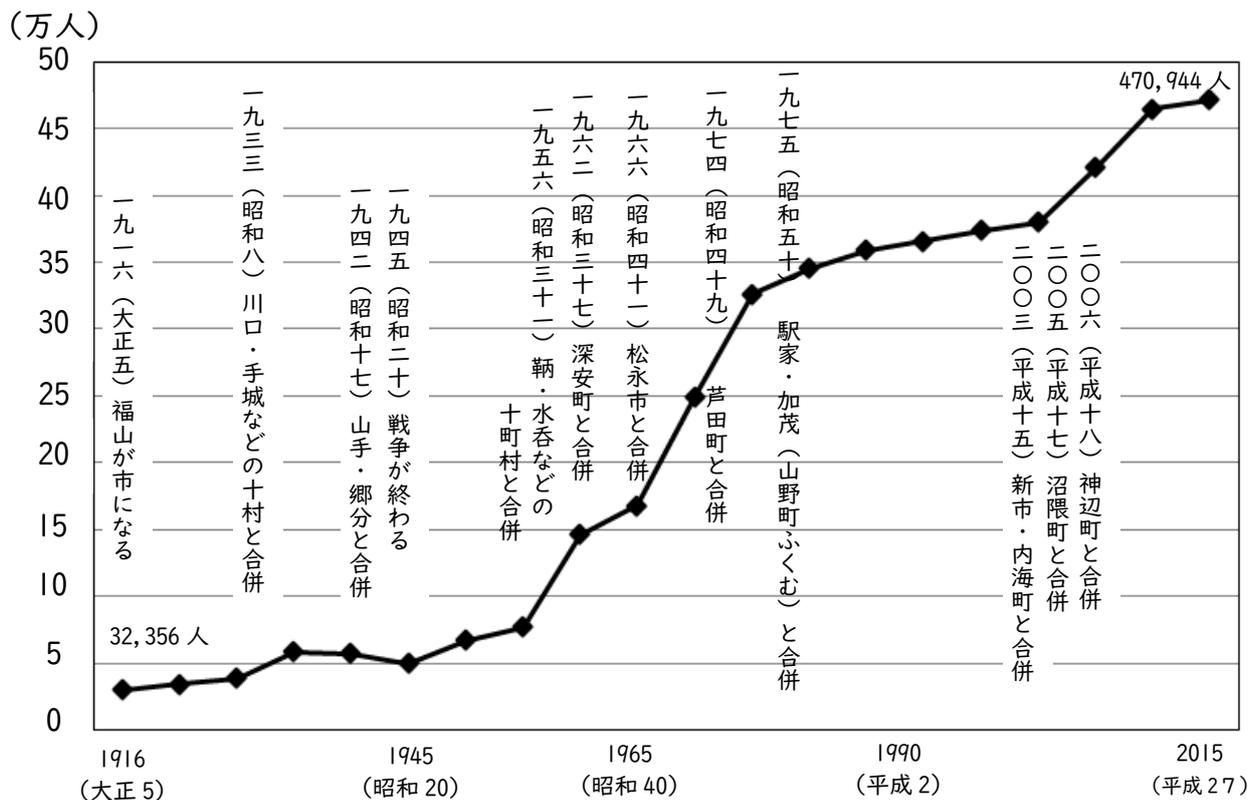
〔埋め立てによりできた工場用地〕

また、近隣地域との一体的発展をめざして、1962年（昭和37年）に深安町と、1966年（昭和41年）に松永市と、1974年（昭和49年）に芦田町と、1975年（昭和50年）に駅家町・加茂町と合併し、市域・人口も拡大・増加し、名実共に備後地域における中核都市となりました。

現在、人口約47万人、面積は約520km²となり、広島県で2番目、中国地方では4番目の都市規模に成長しています。



〔発展の移り変わり〕



〔人口の移り変わり〕

(2) 中核市福山

福山は1993年（平成5年）に福山地方拠点都市地域の指定を受け、さらに1998年（平成10年）4月には、本来、県が行う住民のための行政事務の一部を独自に行うことができる中核市へと移行し、市民サービスの向上と自主・自立のまちづくりを進めています。

地域の人が生活しやすくするための施設



〔東部市民センター〕

健康な生活を守るための施設



〔すこやかセンター〕

文化・芸術・スポーツ・レクリエーションなどを楽しむための施設



〔リーデンローズ〕



〔福山通運ローズアリーナ〕

ふるさと豆知識

中核市が取り扱える主な行政事務

- 保健衛生に関する事務
 - ・ 保健所の設置 ・ 飲食店営業等の許可など
- 福祉に関する事務
 - ・ 保育所の設置の認可、監督
 - ・ 養護老人ホームの設置の認可、監督
 - ・ 介護サービス事業者の指定 など
- 教育に関する事務
 - ・ 教職員のための研修
- 環境に関する事務
 - ・ 一般廃棄物、産業廃棄物処理施設の設置の許可など
- まちづくりに関する事務



〔福山市保健所〕



〔保育所〕

福山城

1 福山城の歴史

福山藩初代藩主水野勝成は、中国地方初の譜代大名として、1619年（元和5年）備後10万石の領主に任命されて入封し、1622年（元和8年）に福山城を完成させました。当時、中四国地方、九州地方は外様大名が多く治めており、西日本の外様大名が集結すると、江戸幕府を倒せるほどの力がありました。福山城は、それらの外様大名たちを牽制し、再び戦を起こさせないようにする役割を担い、徳川幕府から西国鎮衛の拠点として築城されました。

そのため、10万石の水野勝成でしたが、50万～100万石級の城を築城しました。以降、水野家五代、松平家一代、阿部家十代の歴代藩主を通じて、幕末まで福山藩の政治の中心となりました。

その後、明治時代には、明治維新により多くの建物が取り壊され、さらに1945年（昭和20年）8月8日の福山空襲で天守・御湯殿を焼失しました。

しかし、福山城に対する市民のシンボルとしての愛情が強く、市制50周年を迎える1966年（昭和41年）に記念事業として復元に着手しました。その際、市民、企業から総額1億5471万円の浄財が寄せられ、天守・月見櫓・御湯殿を再建しました。



〔VRによる福山城の復元画像〕

2 福山城を代表する藩主



福山藩 水野家初代藩主
水野 勝成 (みずのかつなり)

藩主在任期間
1619年(元和5年)～1639年(寛永16年)
生没年
1564年(永禄7年)～1651年(慶安4年)

1564年(永禄7年)、三河国に生まれる。勝成の父忠重と徳川家康母の於大は姉弟であるため徳川家康とは従兄弟の関係にあたる。

1619年(元和5年)福山に入封した後は福山城の築城とともに海を埋め立てて城下町の建設に邁進することとなる。さらには上水道の敷設や、備後 畳表などの産業の振興、寺社仏閣の修繕等で活躍し、福山の礎を築いた。勝成の人生は戦国武将としての前半と、藩主としての後半に分かれており、入封後は正に福山開祖と呼べ、後世に与えた影響は計り知れない。



福山藩 阿部家7代藩主
阿部 正弘 (あべまさひろ)

藩主在任期間
1836年(天保7年)～1857年(安政4年)
生没年
1819年(文政2年)～1857年(安政4年)

1819年(文政2年)江戸幕府で生まれる。1836年(天保7年)兄の藩主正寧の養嗣子となり、18歳で家督を継ぐ。1843年(天保14年)には25歳の若さで老中に抜擢され、翌年には老中首座となる。1853年(嘉永6年)にはペリーが浦賀に来航、翌年には日米和親条約を締結し、そうした開国問題を老中首座として、日本全国の舵取りを行った。正弘は身分にとられない人材の登用や、文武一体となった学制の改革等、幕府政治においてもまれにみる清新の気風を起こした。

3 福山城のつくり

福山城は、本丸、二之丸、三之丸と、内堀と外堀の二重の堀からできています。本丸は、豊臣秀吉の大阪城天守をお手本にしたと言われる五層六階の天守が築かれました。また、その南側には秀吉が建てた京都にある伏見城から移築された伏見御殿がありました。

さらに、伏見櫓、筋鉄御門、月見櫓、大手門なども京都から移築されました。これらは徳川二代将軍秀忠から築城の時に与えられたものです。

このように、城の一部は移築されたものですが、この当時、最も進んだ建築技術や土木技術を使って建てられた城だと言われています。



〔福山城古写真〕

天守

一国一城令が^{はっぶ}発布されている^{じせい}時世において本格的な築城を許された江戸時代最後の天守とされています。1620年(元和6年)から築城が始まり、1622年(元和8年)とわずか2年で完成しました。

天守は五層六階、^{ゆいっ}全国唯一の^{とくちょう}特徴として北側の守りが弱いため、北側のみ鉄板を張っていました。1931年(昭和6年)に国宝に指定されますが、1945年(昭和20年)8月8日の福山空襲の際に焼失しました。現在の天守は1966年(昭和41年)に再建され、2022年(令和4年)の福山城築城400年を記念し、北側鉄板張りなど、焼失前の姿に外観復元されます。



伏見櫓(国重要文化財)

京都伏見城・松の丸にあったものを水野勝成の福山城築城にあたって、徳川二代将軍秀忠が移築させたものです。2階^{はり}梁より“松ノ丸ノ東やく(ぐ)ら”といった刻印が発見されており、京都伏見城からの移築を表しています。

構造としては三層三階、^{ほんかわらぶき}本瓦葺で、水野時代より武具の保管庫とされていました。

これだけ大きなお城を作るのは、
どれくらい大変だったんだろうね。



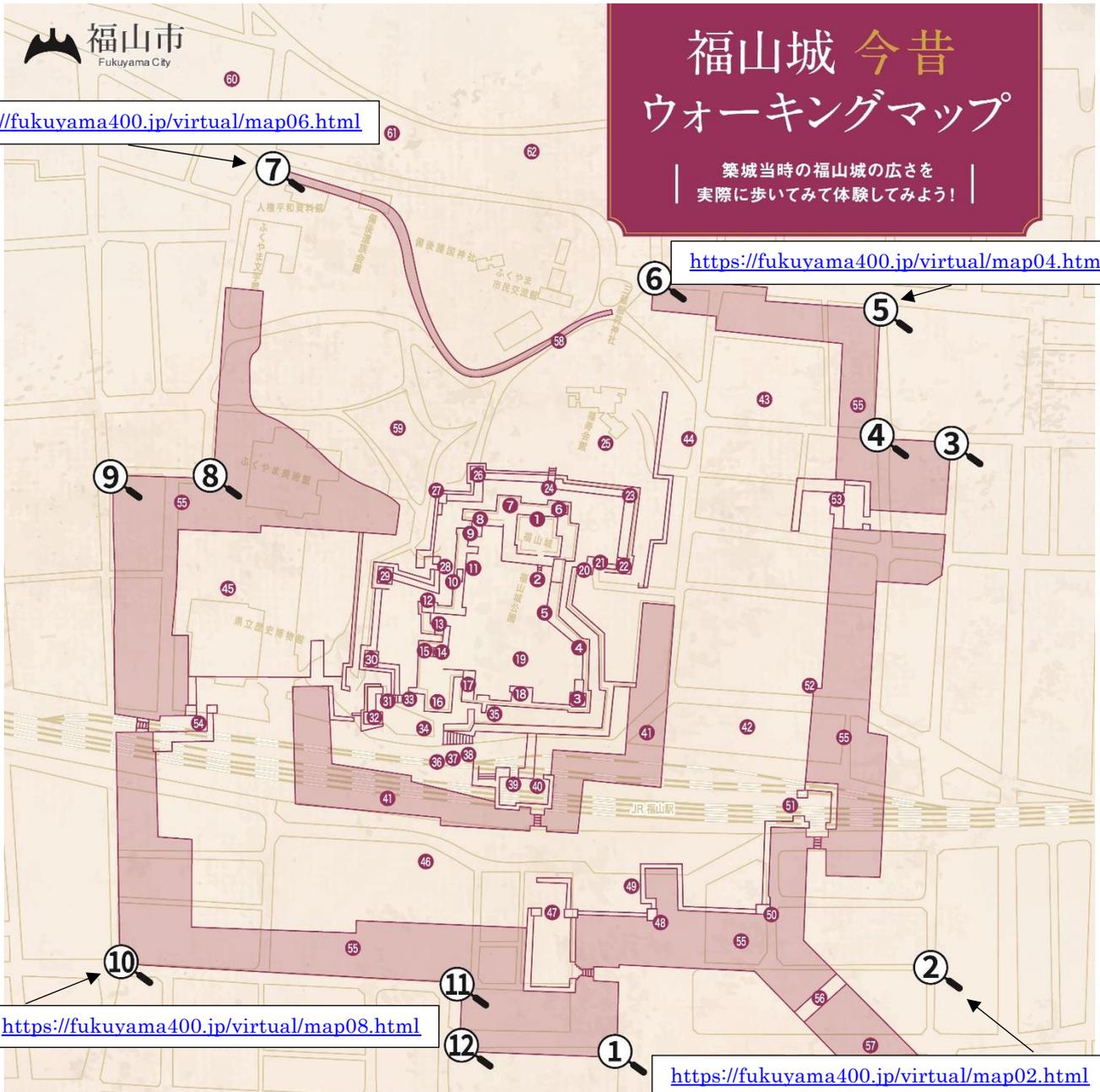
福山城築城の始まりから福山の発展の
歴史、水野勝成や阿部正弘の功績を動画
で^{しょうかい}紹介しているよ。

<http://fukuyama400.jp/history/>



ポイント①～⑫を周って、築城当時のお城の広さを体感しよう

地図上にあるURLを読み込むと、その場所から見える築城当時のお城が体験できるよ。



本丸	⑤ 亭櫓	⑪ 黄金水	⑰ 筋鉄御門	二之丸	⑳ 蔵口門	㉑ 神辺二番櫓	㉒ 櫓形櫓	三之丸	㉓ 家老屋敷	㉔ 物見櫓	㉕ 上水道
① 天守閣	⑥ 玉櫓	⑫ 人質櫓	⑱ 御湯殿	㉒ 鹿角茶櫓	㉔ 五千石蔵	㉑ 西坂口門	㉒ 鍵櫓	㉓ 追手御門	㉔ 北御門	㉕ 小丸山	㉖ 蓮池
② 天守曲輪追手門	⑦ 塩櫓	⑬ 御台所門	⑲ 伏見御殿	㉒ 東上り橋門	㉑ 神辺四番櫓	㉑ 西腰郭門	㉒ 鉄砲櫓	㉓ 御用水敷	㉔ 御水門	㉕ 外堀	㉖ 黒御門
③ 月見櫓	⑧ 内六番櫓	⑭ 鐘櫓	⑳ 伏見御殿	㉒ 東坂三階櫓	㉑ 水の手門	㉑ 坂上番所	㉒ 鉄御門	㉓ 馬場	㉔ 二重櫓	㉕ 築切	㉖ 吉津川
④ 鏡櫓	⑨ 薬木門	⑮ 火打櫓	㉑ 伏見櫓	㉒ 鬼門櫓	㉑ 神辺三番櫓	㉑ 二帯曲輪門	㉒ 内堀	㉓ 城代家老屋敷	㉔ 東御門	㉕ 入江	

福山城バーチャルツアー

築城当時の福山城をCGで再現しました。現在では、見ることのできない伏見御殿や築城当時の城郭の広さを体験してみてください。

<http://fukuyama400.jp/virtual/fj-vtour>



昔を伝えるもの

1 祭りや行事

昔から福山の主な行事は、新春に行われる「とんど」と、お盆^{ぼん}の「二上り」でした。現在では、5月のばら祭と、夏に行われる福山夏まつりが主なものとなり、二上りはその中で踊^{おど}られます。また、秋には、町内会や子ども会ごとに、秋祭りも開かれています。神輿^{みこし}が出る^{おど}などして、賑^{にぎ}やかに行われます。この他にも、市内各地には子どもたちの楽しみとして、「いのこ」など季節ごとにいくつかの行事を行っているところがあります。「はねおどり」や「神楽」などは、その年の豊作を祝って踊られます。



〔とんど〕



〔二上り〕



〔はねおどり〕



かぐら
〔神楽〕

(1) とんど

「とんど」は平安時代、御所で行われていた正月行事の一つで、「左儀長」と呼ばれた行事が起源と言われています。

それが段々と人々の間に広まり、福山城に初の城主が入城した際、それを祝って町の人々がとんどを飾りつけ、担ぎ回ったことが「練り歩く形のとんど」の起源だと言われています。



〔「とんど」(『福山左儀長絵巻』(部分) 福山城博物館蔵)〕

その後、「とんど」は地域の人々が集い、正月飾りを焼くことで、1年間無病息災を願って行われるようになりました。

しばらくの間「とんど」が行われなかった時期もありましたが、最近では、1月15日または、その前後の休日に、商店街や地域の子ども会を中心に、福山市内の多くの学区で行われるようになりました。

沼隈町能登原に伝えられている、「能登原とんど」は福山市の無形文化財に指定されています。



〔能登原とんど〕

どんな願いや思いをもって、とんどを受け継いできたんだろう。



(2) 二上りおどり

毎年8月13日から15日の3日間、福山市内中心部の商店街や中央公園などで、福山夏まつりが開催されます。そこでは、「二上りおどり」と呼ばれる踊りが多くの人々によって踊られます。

この「二上りおどり」は、盆踊りの一種と考えられる踊りです。

江戸時代、三味線しゃみせんの「二上り」のメロディーをもとに、尺八しゃくはちなどの楽器に合わせ、頭おりがさに折笠ほお・頬かむりをし、手うちわに団扇を持ち踊っていました。

現在では、団扇に代えて竹製の打楽器「四ツ竹」を使い、頭かぶに被るものも、はちまきや手拭いてぬぐに変わり、楽器には鉦かね・太鼓たいこを加え、踊りの曲も速いテンポになっています。



〔福山夏まつりで踊られる「二上りおどり」〕



ふるさと豆知識

二種類の二上り

「二上り」には、福山城下に伝わるものと、江戸時代の宿場町であった神辺に伝わっていたとされる二つの踊りがあります。

福山城下に伝わるものは「広島県無形民俗文化財」に指定され、神辺に伝わっていたとされるものは「福山市無形民俗文化財」に指定されています。

(3) はねおどり

「はねおどり」は、古来より備後南部一帯で踊られたもので、起源は農村行事「虫送り」「雨乞い」であったと考えられています。その名の通り、楽器を打ち鳴らしながら大地を踏みしめたり、跳びはねたりして踊ります。踊りの起源は明らかではありませんが、少なくとも江戸時代以前から踊られていたと伝えられています。



みっかいち
〔神辺町三日市の「はねおどり」〕

江戸時代、水野勝成が福山城主となり、この踊りを見て、勇ましく活気に満ちていることから、これを推進し、各村々に鉦と鼓を配り、雨乞い・虫送り・祭りなどの行事に行かせたと伝えられており、この時代から盛んになったと言われています。

現在は沼隈・蔵王・田尻の「はねおどり」が広島県無形民俗文化財の指定を受け、今に至っています。

踊りの様式は、単衣の着物にたすきがけをし、手甲・脚半にわらじを履き、鬼や音頭取りの音頭に合わせ、鉦や太鼓を打ち鳴らして踊ります。

大胴と呼ぶ大太鼓は、左手に抱えこみ、大きく振り回しながら打ちます。入鼓と呼ぶ小太鼓は、胸につけ、跳びはねるように打ちます。鉦は、左手に持ち、腰をかがめて打ちます。



〔山南の「はねおどり」〕



とんどや二上りおどり、はねおどりは、これからも受け継いでいくための課題はないのかな。

2 昔の建物と町並み

福山市には、何百年も前に建築されたお寺や民家、昔の生活の様子が分かるものが保存されています。また、広島県立歴史博物館には、昔栄えた草戸千軒の町も復元されています。



〔明王院本堂〕



〔鞆の古い町並み〕



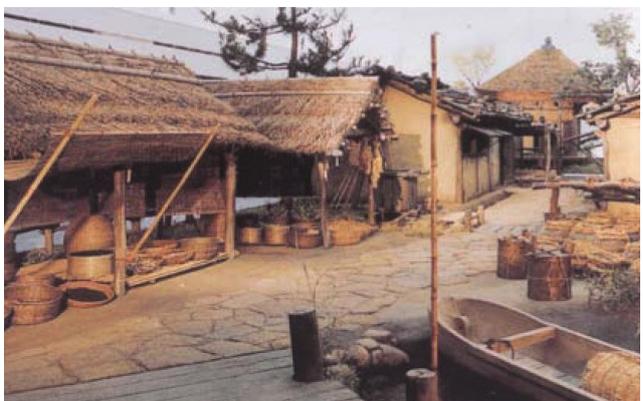
〔明治2年の福山城〕



〔昭和の初めごろの藤江小学校〕



〔昭和12年の大津野小学校新校舎落成式〕



〔再現された草戸千軒の町〕

福山市ウォーキングマップ



「福山市ウォーキングマップ」というものを見つけたよ。なんのマップなんだろう。

健康ふくやま21



ふくっぴー

福山を歩いてみたい!!「あの町、この町」
ウォーキング 戸手 学区
【大佐山白塚古墳5.0kmコース】

①スタート地点: 戸手公民館
②中戸手具神社: 0.5km
③荒神社: 0.9km
④八幡神社: 1.0km
⑤大佐池: 1.7km
⑥大佐山白塚古墳: 2.5km
⑦戸手公民館(着): 5.0km

コースの概要:
スタート地点: 戸手公民館
コース距離: 約5km
所要時間: 約1時間30分
※所要時間には休憩・見学時間は含まれません。

ウォーキングマップは、小学校区ごとに、地域の自然や名所を楽しみながら歩くことができるコースを紹介した地図なんだよ。

福山のみなさんの健康づくりのためのボランティアをしてくださっている、福山市運動普及推進員の人たちが作ってくれたんだよ。ぜひ、家族と一緒に地域めぐりをしてみてね。

福山を歩いてみたい!!「あの町、この町」
ウォーキング 千年 学区
【海・山・川 千年学区の絶景コース】

①沼袋交差点
②内海大橋登り口
③小尾越坂
④内海大橋を見る
⑤山南川散歩道
⑥枝江公園

コースの概要:
スタート地点: 沼袋交差点
コース距離: 約4km
所要時間: 約1時間
※所要時間には休憩・見学時間は含まれません。

福山を歩いてみたい!!「あの町、この町」
ウォーキング 東 学区
【東公民館～水野園成のお墓～高野山別院～しよや美術館コース】

①福山陸軍水野園成のお墓
②高野山福山別院
③しよや美術館
④大瀬町商店街

コースの概要:
スタート地点: 東公民館
コース距離: 約2km
所要時間: 約45分
※所要時間には休憩・見学時間は含まれません。



マップは、下記の福山市ホームページからダウンロードできるよ。

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/kenkosuishin/723.html>